

困難を持つ子ども・若者や 家族への支援

参加無料

事前申し込み
締切：8月12日

新型コロナウイルスの感染拡大から2年以上が経過し、この間、感染は拡大と収束を繰り返し多くの人が影響を受けました。そのような中で、大人だけでなく、心身ともに疲弊している子どもや若者が増えています。そして、外部とのつながりが失われるとSOSが家庭内に埋もれてしまう危険性があり孤独・孤立を深めます。本シンポジウムでは、このような状態の方たちに、どのような支援が必要なのかまた、生活困窮者自立支援制度をどう活用するべきかについて考えます。

令和4年8月20日(土)

13時30分～16時30分(受付開始13:00)

会場: 京都テルサ東館3階 大会議室
(京都市南区東九条下殿田町70)

定員: 100名(先着順)

第1部 13:40～14:50

基調講演

「困難を持つ若者たちの現状」

アフターケア相談所ゆずりは
所長 高橋 亜美氏

【主催】  京都府・一般社団法人 京都自立就労サポートセンター

お問い合わせ：一般社団法人 京都自立就労サポートセンター

TEL:075-693-7727 FAX:075-682-8939 E-mail:info@k-p-support.jp

〒601-8047 京都市南区東九条下殿田町70 京都テルサ西館3階

パネルディスカッション「子ども・若者を通じた家族への支援」

コーディネーター



湯浅 誠 (ゆあさ まこと) 社会活動家、東京大学先端科学技術研究センター特任教授
認定NPO法人全国こども食堂支援センター・むすびえ理事長

1990年代よりホームレス支援に従事し、2009年から足掛け3年間に閣府参与に就任。内閣官房社会的包摂推進室長、震災ボランティア連携室長など。政策決定の現場に携わったことで、官民協働とともに、日本社会を前に進めるために民主主義の成熟が重要と痛感する。2014～2019年まで法政大学教授。

著書に、『つながり続ける こども食堂』（中央公論社 2021年）、『子どもが増えた！人口増・税収増の自治体経営』（泉房穂氏との共著、光文社新書 2019年）、『「なんとかする」子どもの貧困』（角川新書 2017年）などその他多数

パネリスト

川口 寿弘 (かわぐち としひろ) 鳥取市総務部 人権政策局長 兼 中央人権福祉センター所長
一般社団法人日本伴走型支援協会理事

2015年より生活困窮者支援に従事、同年から民間団体と共同して鳥取で最初の地域食堂（こども食堂）を開始。2017年鳥取市地域食堂ネットワークを設立。地域食堂を地域で困難を抱える人・世帯にアウトリーチする社会資源として政策的に位置づけ推進。2022年より重層的支援体制整備事業の実施機関として、社会的孤立防止のための支援に力点を置く。

高橋 亜美 (たかはし あみ) アフターケア相談所ゆずりは所長
アフターケア事業ネットワークえんじゅ代表理事

日本社会事業大学社会福祉学部卒業後、自立援助ホームのスタッフを経て、2011年よりゆずりはをスタート。著書に『子どもの未来をあきらめない 施設で育った子どもの自立支援』（明石書店2015年）『はじめてはいた靴下』（百年書房2018年）など。



【会場までのアクセス】



- JR京都駅（八条口西口）より南へ徒歩約15分
- 近鉄東寺駅より東へ徒歩約5分
- 地下鉄九条駅4番出口より西へ徒歩約5分

【 新型コロナウイルス感染拡大防止について】

ご入場の際には、マスクの着用、検温、手指の消毒にご協力いただいております。発熱やせき体のだるさ等の体調不良が見られる場合はご来場をお控えください。

なお、京都府内の感染発生状況によっては、開催方法の変更もしくは、中止する場合がございますので、ご了承ください。

令和4年度生活困窮者自立支援制度シンポジウム
参加申込書

お名前（ふりがな）	
ご所属先名	
ご連絡先（必須）	TEL: E-mail :

〔申込期限〕 令和4年8月12日(金)

※定員になり次第締め切らせていただきます。

〔お申込み方法〕 必要事項を記入の上、FAXまたはメールにてお申込みください。

FAX：075-682-8939 E-mail：info@k-p-support.jp